

第37回 県政に関する世論調査の結果について

平成21年5月1日
千葉県総合企画部報道広報課
電話：043-223-2247

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年度実施しています。

平成18年度から年2回実施しており、今回は平成20年度第2回目の調査で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、昨年12月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、防災意識、住宅用火災警報器の設置状況、環境保全に関する取り組み、レジ袋の削減、森林などの「みどり」の保全、千産千消、有機農業、農村地域の活性化、県民主役の県政運営の9項目の県政の主要課題について調査を行いました。

※今回の調査で、新たに調査項目ごとに自由意見欄を設け県民の方からご意見・ご提案をいただいた。

1 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収）

(5) 調査時期 平成20年12月5日～12月25日

2 回収結果

有効回収数（率） 1,710（57.0%）

3 調査の項目

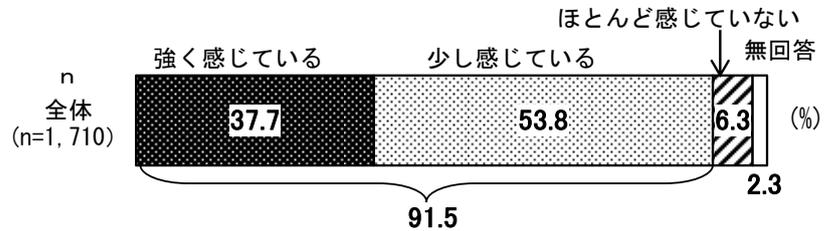
| 県政の主要課題 | 自由意見の回答状況 | |
|--------------------|-----------|-------------|
| ①防災意識について | 235人 | |
| ②住宅用火災警報器の設置状況について | 151人 | |
| ③環境保全に関する取り組みについて | 128人 | |
| ④レジ袋の削減について | 265人 | |
| ⑤森林などの「みどり」の保全について | 234人 | |
| ⑥千産千消について | 171人 | |
| ⑦有機農業について | 151人 | |
| ⑧農村地域の活性化について | 163人 | |
| ⑨県民主役の県政運営について | 125人 | |
| (その他自由意見) | 281人 | |
| (世論調査) | 154人 | 延べ人数 2,058人 |

4. 調査の結果

1 防災意識について

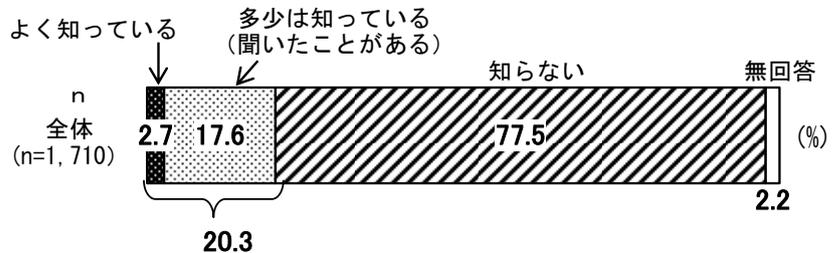
(1) 大地震に対する不安

自分の住んでいる地域で、今後大地震に対する不安があるかどうかを聞いたところ、「強く感じている」(37.7%)と「少し感じている」(53.8%)を合わせた『感じている』(91.5%)が9割を超える。



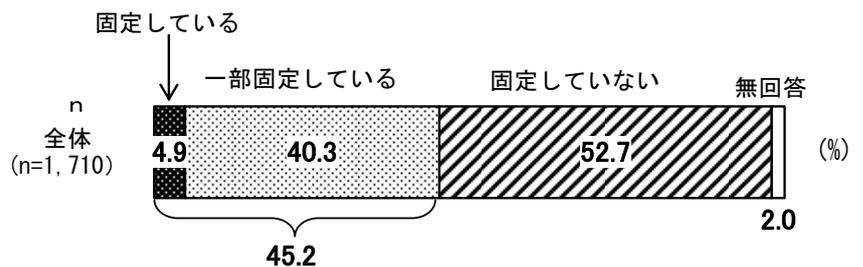
(2) 地震被害想定調査の認知度

「地震被害想定調査」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(2.7%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(17.6%)を合わせた『知っている』(20.3%)が2割である。一方、「知らない」(77.5%)は約8割となっている。



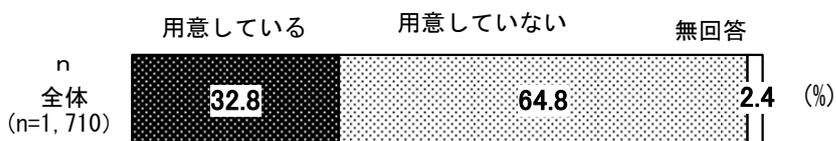
(3) 大きな地震に備えて、家具などを固定しているかどうか

大きな地震に備えて家具などを固定しているかどうかを聞いたところ、「固定している」(4.9%)と「一部固定している」(40.3%)を合わせた『固定している』(45.2%)が4割台半ばである。一方、「固定していない」(52.7%)は5割を超える。



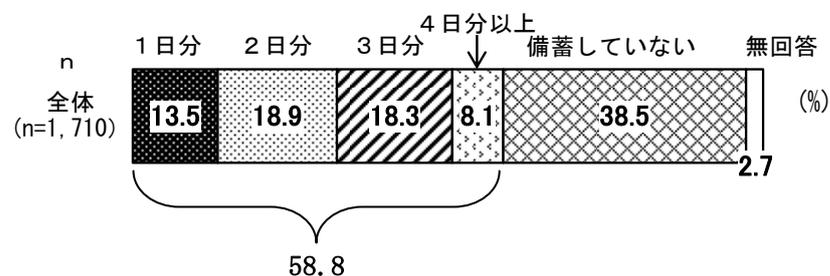
(4) 災害時の非常持ち出し袋を用意しているかどうか

災害時の非常持ち出し袋を用意しているかどうかを聞いたところ、「用意している」(32.8%)は、3割を超える。一方、「用意していない」(64.8%)は6割台半ばとなっている。



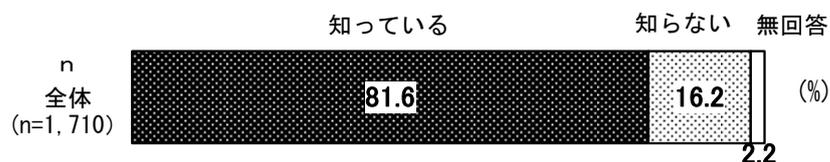
(5) 大地震に備えて飲料水や食料はどのくらい備蓄しているか

大地震に備えて飲料水や食料はどのくらい備蓄しているかを聞いたところ、「1日分」、「2日分」、「3日分」、「4日以上」を合わせた『備蓄している』(58.8%)は約6割である。最も高いのは「2日分」(18.9%)で約2割であった。

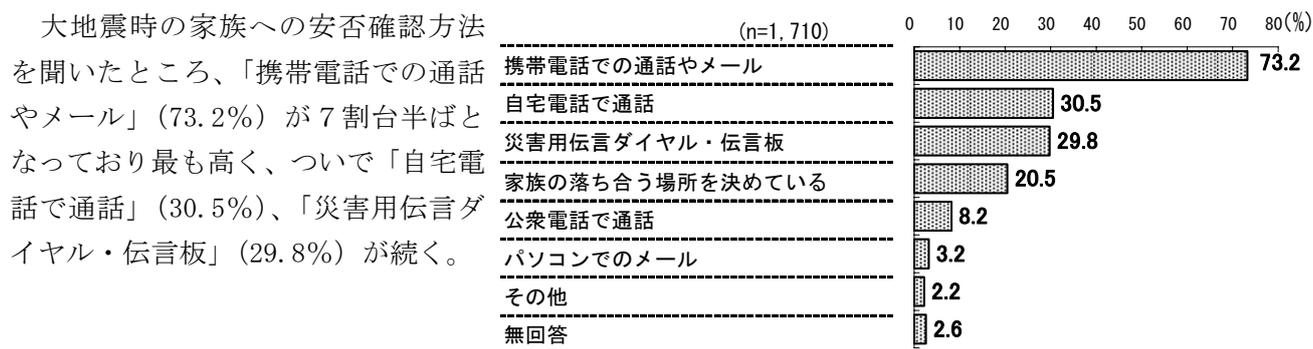


(6) 近くの避難場所の認知度

近くの避難場所を知っているかどうかを聞いたところ、「知っている」(81.6%)は、8割を超える。一方、「知らない」(16.2%)は1割台半ばとなっている。



(7) 大地震時の家族への安否確認方法



《「防災意識について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、235人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

○足の不自由な高齢者と同居している。避難場所は6 km離れた中学校なので、実際に行くのはムリ。自宅にいるしかないかも。昼間家に独りなので、家族が不在の際、非常に心配です。

(女性・40代・中央地域)

○実際、小さい子供がいると、子供を連れ出すだけで精一杯と思います。持ち出し袋の中身は最低限で、全く足りないと思います。(女性・30代・西地域)

○道路が狭く、車は多く、古い家の倒壊などで避難場所まで辿り着けるかが心配。

(男性・60歳以上・西地域)

2 住宅用火災警報器の設置状況について

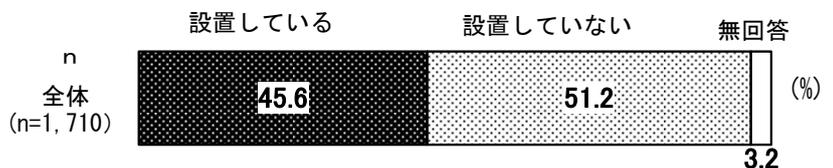
(1) 住宅用火災警報器の設置義務の認知度

住宅用火災警報器の設置義務の認知度を聞いたところ、「知っている」(72.9%)は7割を超える。一方で、「知らない」(26.1%)は2割台半ばである。



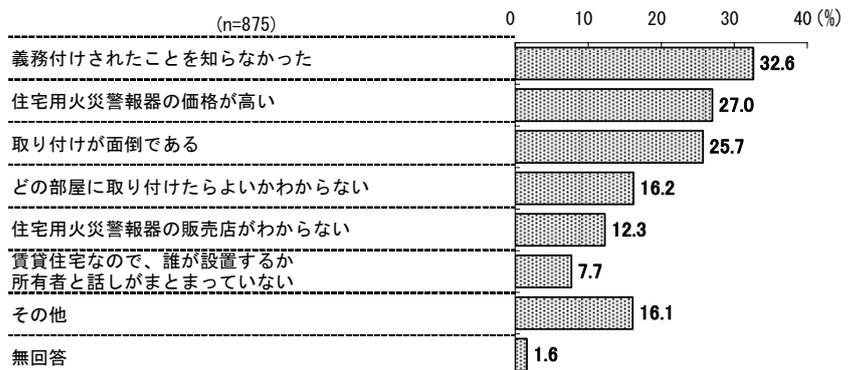
(2) 住宅用火災警報器の設置状況

住宅用火災警報器の設置状況を聞いたところ、「設置している」(45.6%)は4割台半ばである。一方で、「設置していない」(51.2%)は5割を超える。



(2-1) 住宅用火災警報器を設置していない理由

「設置していない」と回答した人875人に、住宅用火災警報器を設置していない理由を聞いたところ、「義務付けされたことを知らなかった」(32.6%)が最も高く3割を超え、ついで「住宅用火災警報器の価格が高い」(27.0%)、「取り付けが面倒である」(25.7%)となっている。



《「住宅用火災警報器の設置状況について」の自由回答（抜粋）》

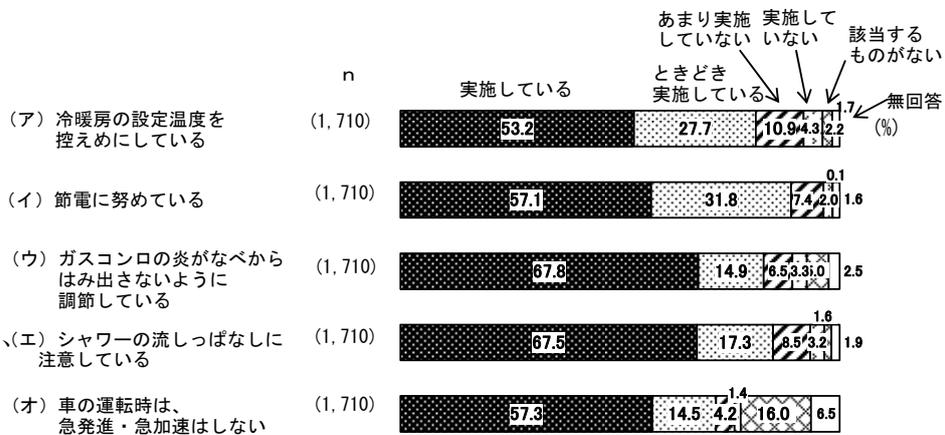
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、151人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 義務付けされた事は知っていたが、どこで手に入れるか、また、価格などの具体的な事が何も分からない…。パンフレットなどを配布してくれると助かると思う。(女性・30代・東地域)
- 火災報知機を購入し設置しましたが、結構価格が高く、2個もつけるのには結構な負担になりました。補助金か、メーカーに相談し地域で数を取りまとめ安くしてもらうような配慮があったら助かったのに残念でした。(女性・50代・南地域)
- 設置について、各個人の責任だとは思いますが、義務付けられたのであれば、フォロー（点検、確認）をきちんとすべきではないか。(男性・60歳以上・西地域)

3 環境保全に関する取り組みについて

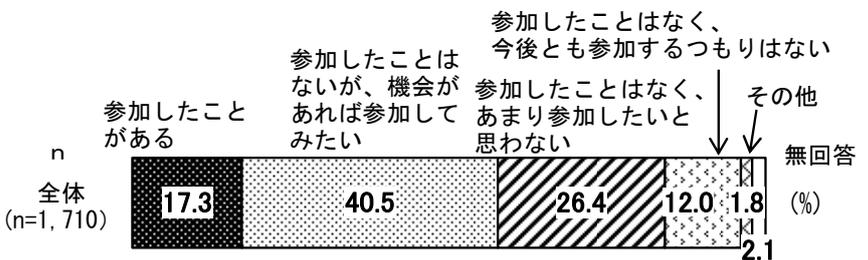
(1) 環境保全のために日常生活で行っていること

環境保全のために日常生活で行っていることを聞いたところ、「実施している」は、〈冷暖房の設定温度を控えめにしている〉(53.2%)で5割台半ば、〈節電につとめている〉(57.1%)で約6割である。また、〈ガスコンロの炎がなべからはみ出さないように調節している〉(67.8%)、〈シャワーの流しっぱなしに注意している〉(67.5%)で約7割、〈車の運転時は急発進・急加速はしない〉(57.3%)で約6割である。



(2) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加経験

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加経験を聞いてみたところ、最も高かったのは、「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(40.5%)で4割を超える。ついで、「参加したことがある」(17.3%)が約2割である。



《「環境保全に関する取り組みについて」の自由回答（抜粋）》

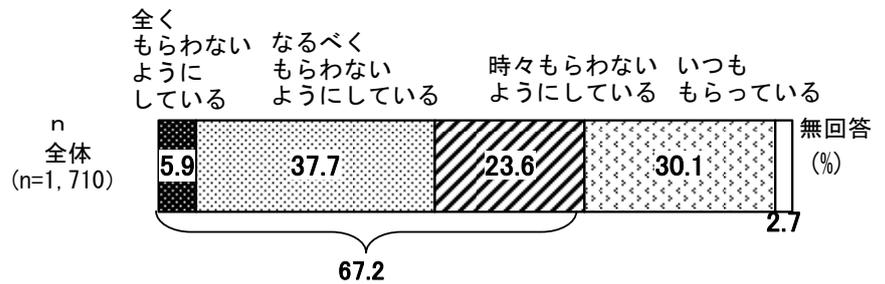
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、128人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 必要であればもっと細かくゴミの分別をするなど、リサイクルにできるだけ配慮してゴミを減らしたいです。商品化する時点での企業の協力が必要かとも思います。(女性・30代・西地域)
- 車をなるべく使用せず、電車、自転車などに切り替えて行なっている。(女性・60歳以上・西地域)
- 県民だよりにエコに対する情報が多く記載されているので参考になります。1月1日発行の記事(4ページ)の環境家計簿はCO2排出量が具体的に計算できて、特に削減すべき項目も知る事ができました。(女性・30代・西地域)

4 レジ袋の削減について

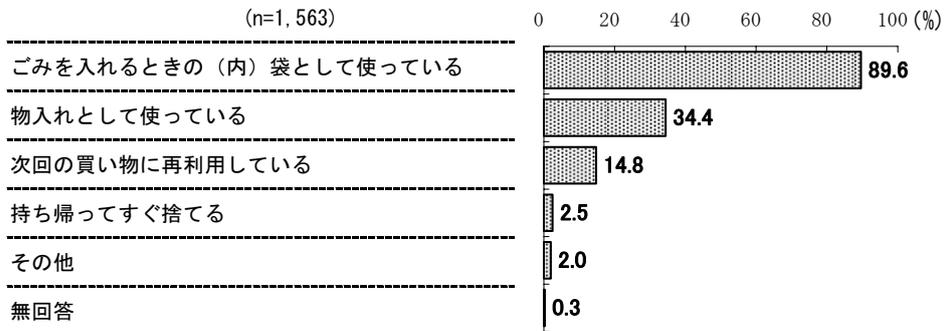
(1) 買い物をする時のレジ袋受け取り状況

買い物をする時にレジ袋をもらうかどうかを聞いたところ、「全くもらわないようにしている」(5.9%)、「なるべくもらわないようにしている」(37.7%)、「時々もらわないようにしている」(23.6%)を合わせた『もらわないようにしている』(67.2%)は、約7割となっている。



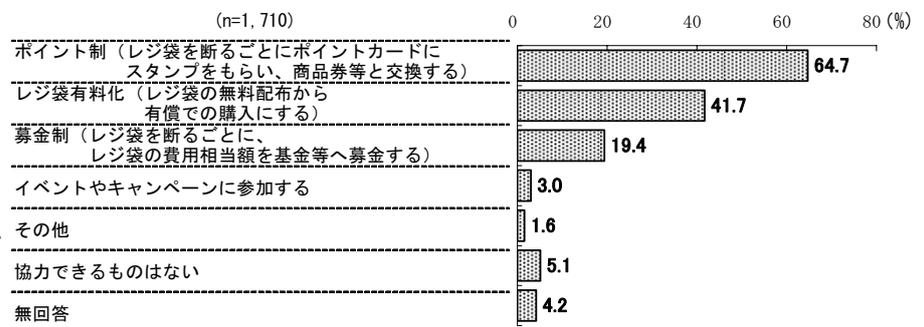
(1-1) 買い物でもらったレジ袋の利用方法

「なるべくもらわないようにしている」、「時々もらわないようにしている」、「いつももらっている」と回答した1,563人を対象に、買い物でもらったレジ袋の利用方法を聞いたところ、「ごみを入れるときの(内)袋として使っている」(89.6%)が最も高く約9割である。ついで、「物入れとして使っている」(34.4%)が3割台半で続く。



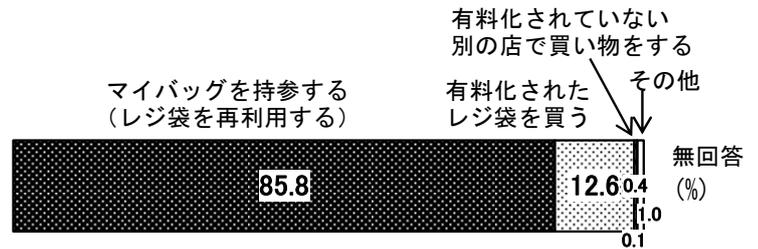
(2) レジ袋を減らすために小売店が行う活動に協力できること

レジ袋を減らすために小売店が行う活動に協力できることを聞いたところ、「ポイント制(レジ袋を断るごとにポイントカードにスタンプをもらい、商品券等と交換する)」(64.7%)が最も高く6割台半ばである。ついで、「レジ袋有料化(レジ袋の無料配布から有償での購入にする)」(41.7%)が続く。



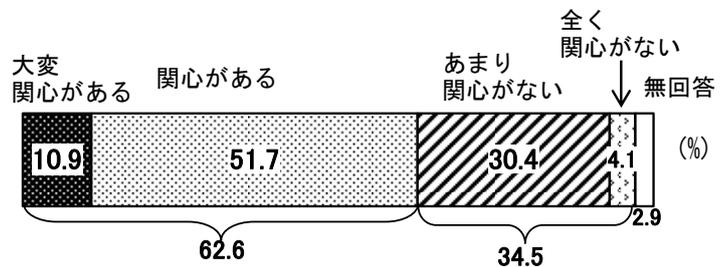
(3) レジ袋が有料化された場合についての対応策

「レジ袋有料化」と回答した713人に、レジ袋が有料化された場合についての対応策を聞いたところ、「マイバッグを持参する（レジ袋を再利用する）」(85.8%)が最も高く、8割台半ばである。ついで、「有料化されたレジ袋を買う」(12.6%)が続く。



(4) 「ちばレジ袋削減エコスタイル」への関心度

「ちばレジ袋削減エコスタイル」への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(10.9%)と「関心がある」(51.7%)を合わせた『関心がある』(62.6%)は6割を超える。一方、「あまり関心がない」(30.4%)と「全く関心がない」(4.1%)を合わせた『関心がない』(34.5%)は3割台半ばである。



《「レジ袋の削減について」の自由回答（抜粋）》

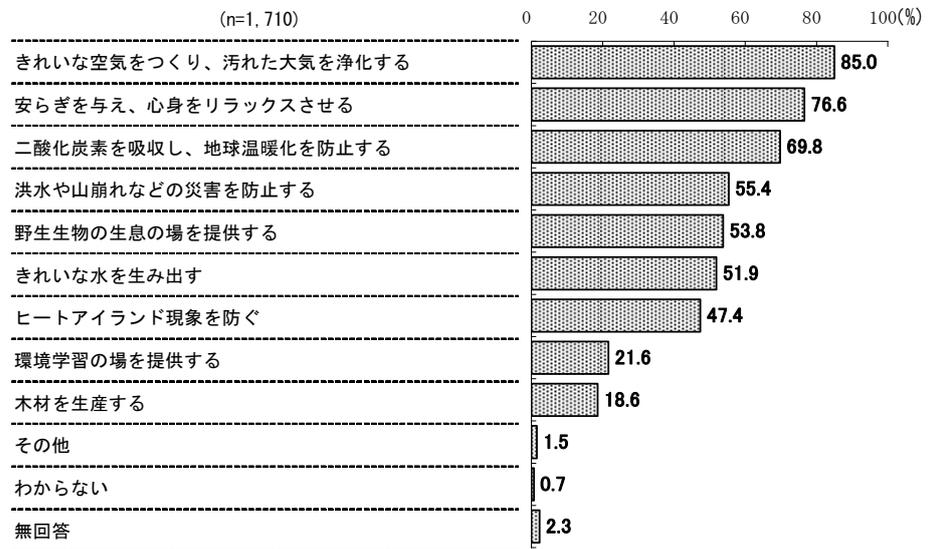
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、265人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 男性の協力が必要。若い人（女性含む）や男性は自分から「袋いりません」となかなか言い出せない。コンビニ等で店員さんが「袋入れますか？」の一声がけが効果があると思います。
(女性・60歳以上・中央地域)
- 「ちばレジ削減エコスタイル」について関心があると答えたが、今回初めてこの取り組みを知った。県独自の取り組みがあることについて、もう少しアピールが必要なのかもしれない。
(女性・20代・東地域)
- 現在の生活に浸透してしまったレジ袋を削減（中止）する為には、根気強く、継続的に、地域社会や学校教育（幼稚園～中学校）の中で徹底して進めていくしかないと思う。
(男性・50代・中央地域)

5 森林などの「みどり」の保全について

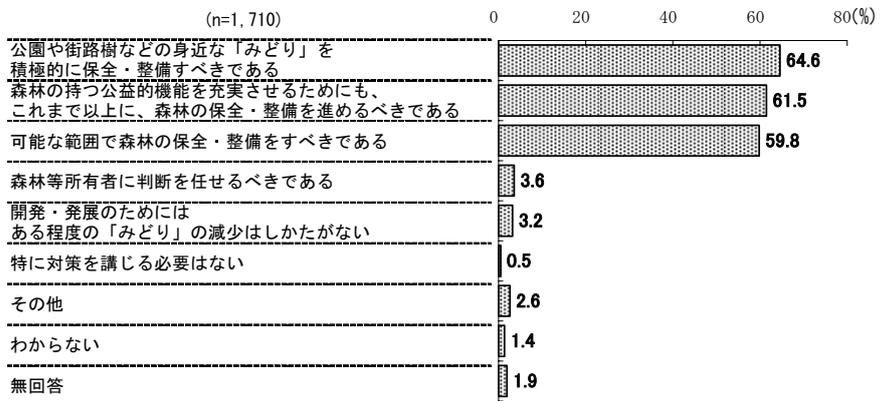
(1) 「みどり」に対して期待する効果

「みどり」に対して期待する効果を聞いたところ、「きれいな空気をつくり、汚れた大気を浄化する」(85.0%)が最も高く、8割台半ばである。ついで、「安らぎを与え、心身をリラックスさせる」(76.6%)が7割台半ばで、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する」(69.8%)が約7割である。



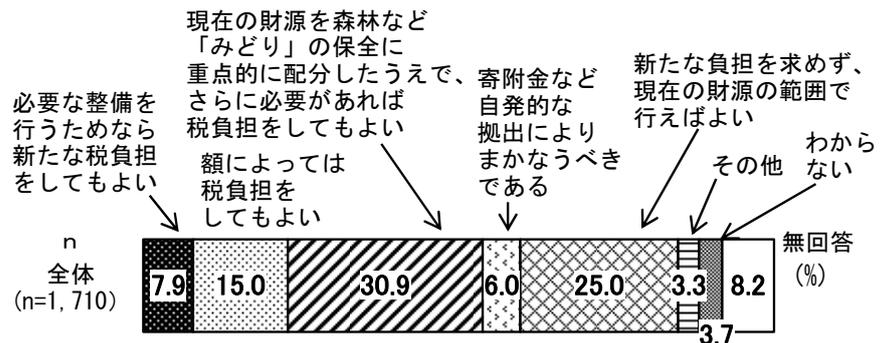
(2) 森林や身近な「みどり」を今後どのようにしていくべきか

森林や身近な「みどり」を今後どのようにすべきかを聞いたところ、「公園や街路樹などの身近な「みどり」を積極的に保全・整備すべきである」(64.6%)が最も高く、6割台半ばである。ついで「森林の持つ公益的機能を充実させるためにも、これまで以上に、森林の保全・整備を進めるべきである」(61.5%)が6割を越え、「可能な範囲で森林の保全・整備をすべきである」(59.8%)が約6割と続く。



(3) 森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて

森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて聞いたところ、「現在の財源を森林など「みどり」の保全に重点的に配分したうえで、さらに必要があれば税負担をしてもよい」(30.9%)が最も高く3割であった。ついで、「新たな負担を求めず、現在の財源で行えばよい」(25.0%)が2割台半ばである。



《「森林などの「みどり」の保全について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、234人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- みどりの保全は重要課題ではあるが、すぐ税金負担を求めず、無駄をなくした上で行うべきだと思う。(男性・30代・西地域)
- 森林・公園などのみどりは私達の生活の中でも地球環境の面で見ても必要不可欠な部分だと思うので、県民として地球に住んでいる一員として協力できる事はしたいと思っている。(女性・20代・中央地域)
- 森林の保全を行うことについて多額の費用とありますが、無駄を省けば財源は確保できるのではないのでしょうか。「森林保全ボランティア」や青少年相談員など、各団体に自然保護の観点からもつながりを持たせ、活動を推進してはいかがでしょうか。(男性・40代・中央地域)

6 千産千消について

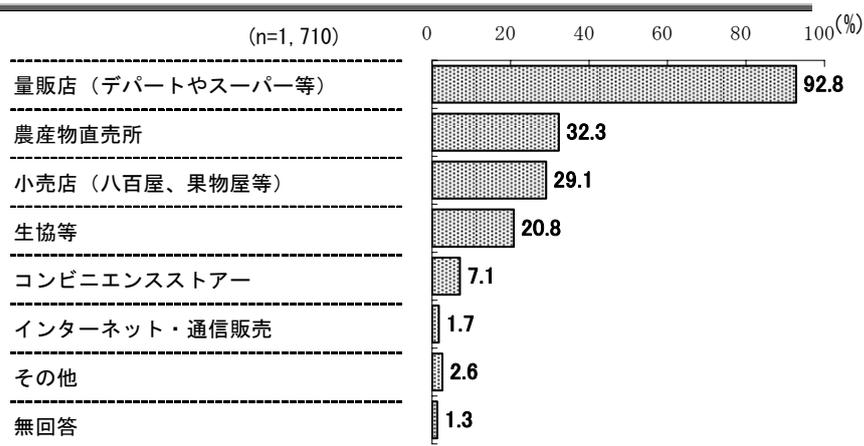
(1) 「千産千消」の認知度

「千産千消」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(32.5%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(26.0%)を合わせた『知っている』(58.5%)は約6割となっている。一方、「知らない」(40.3%)は4割である。



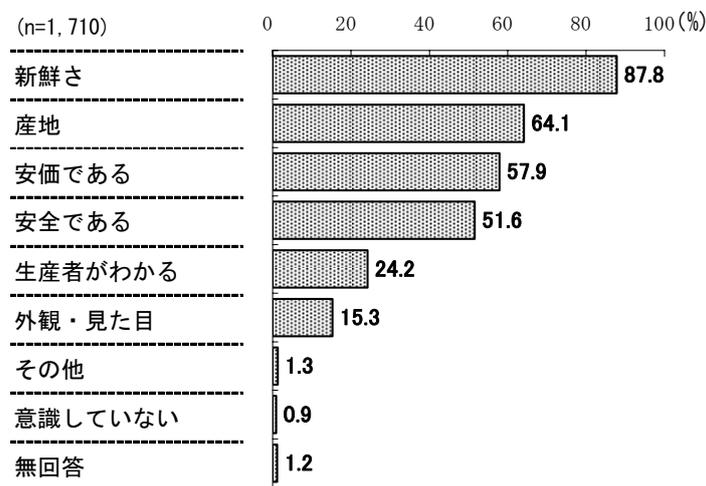
(2) 農林水産物の購入場所

農林水産物の購入場所を聞いたところ、「量販店（デパートやスーパー等）」（92.8%）が最も高く9割を超える。ついで、「農産物直売所」（32.3%）で3割を超え、「小売店（八百屋、果物屋等）」（29.1%）が約3割である。



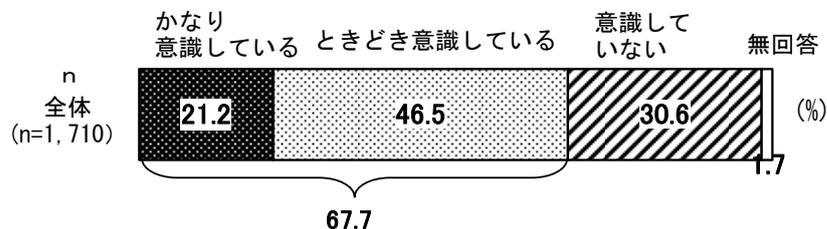
(3) 農林水産物を購入する際に意識すること

農林水産物を購入する際、主にどこに意識して購入するかを聞いたところ、「新鮮さ」（87.8%）が最も高く約9割であった。ついで、「産地」（64.1%）が6割台半ばで、「安価である」（57.9%）が約6割と続く。

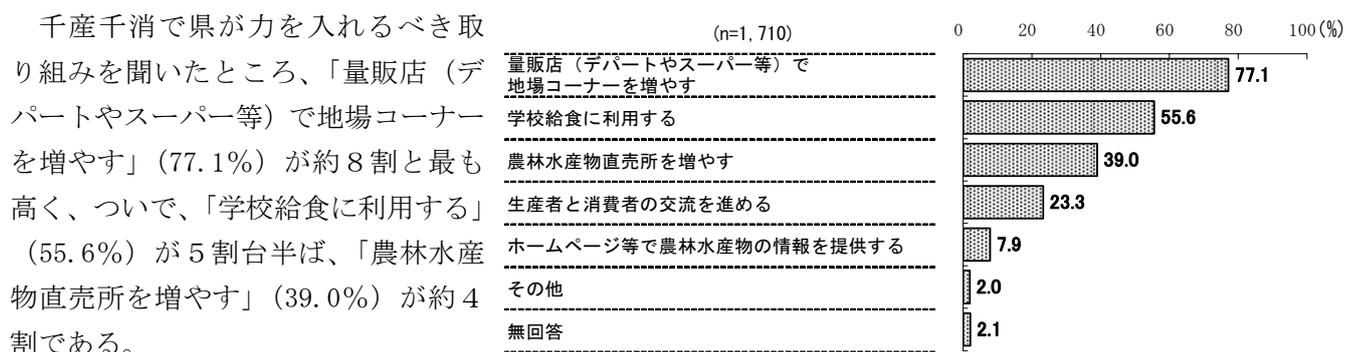


(4) 農林水産物を購入する際に千葉県産であることを意識するか

農林水産物を購入する際、千葉県産であること意識するかどうかを聞いたところ、「かなり意識している」（21.2%）と「ときどき意識している」（46.5%）を合わせた『意識している』（67.7%）は約7割である。一方、「意識していない」（30.6%）は3割である。



(5) 千産千消で県が力を入れるべき取り組み



《「千産千消について」の自由回答（抜粋）》

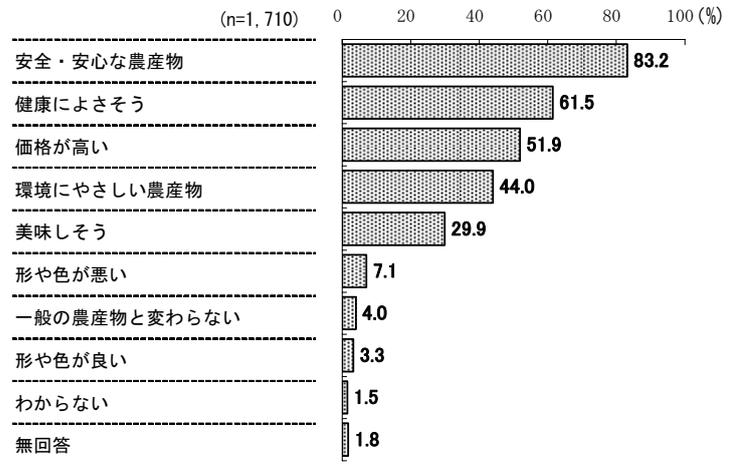
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、171人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- もっと県の行政で「千産千消」の宣伝やアピールをして欲しい。(男性・50代・東地域)
- 各市の特産品をもっとアピールしていったらいいのでは？ 県民千葉の紙面でも取り上げて、おいしい食べ方の紹介をもっと充実させていったら。食べ方の分からない野菜もあるので…。(女性・50代・南地域)
- 学校給食で使用し、それを子供たちにきちんと伝えると、子供たちも地元（千葉県）に、より誇りが持てるだろう。(女性・20代・中央地域)

7 有機農業について

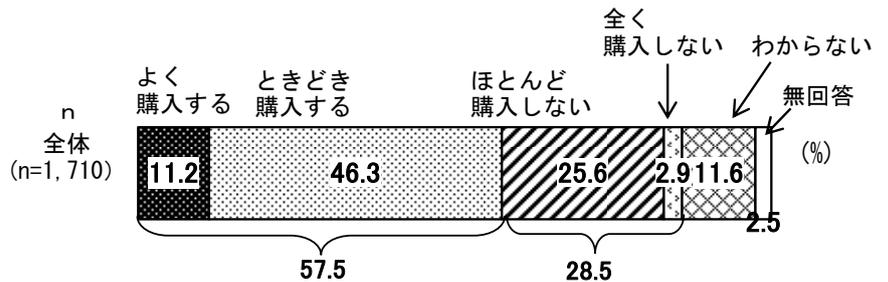
(1) 有機農業の農産物に対するイメージ

有機農業の農産物に対するイメージを聞いたところ、「安心・安全な農産物」(83.2%)が8割台半ばとなっており最も高い。ついで、「健康によさそう」(61.5%)が6割を超え、「価格が高い」(51.9%)が5割を超える結果になっている。



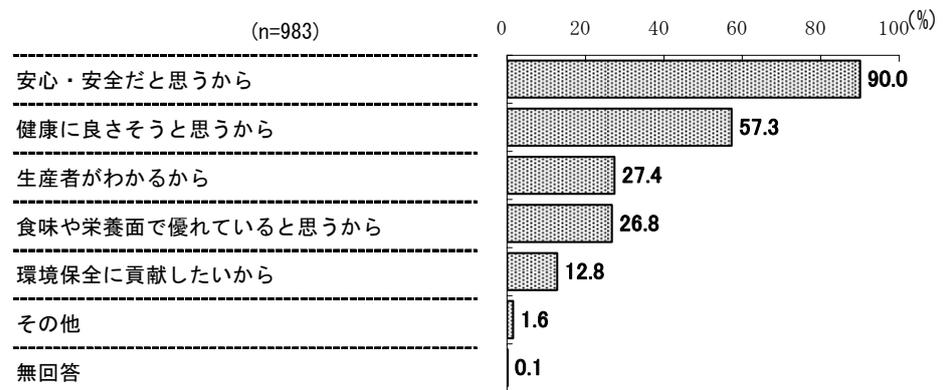
(2) 有機農業の農産物購入頻度

有機農業の農産物の購入頻度を聞いたところ、「よく購入する」(11.2%)と「ときどき購入する」(46.3%)を合わせた『購入する』(57.5%)は約6割である。一方、「ほとんど購入しない」(25.6%)、「全く購入しない」(2.9%)を合わせた『購入しない』(28.5%)は約3割である。



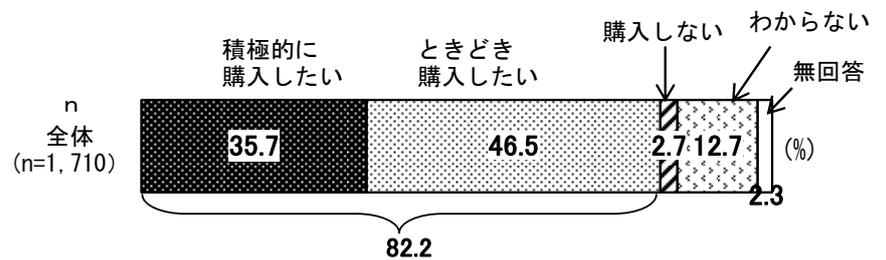
(2-1) 有機農業の農産物購入理由

「よく購入する」、「ときどき購入する」と回答した983人を対象に、有機農業の農産物を購入する理由を聞いたところ、「安心・安全だと思うから」(90.0%)が9割で最も高い。ついで、「健康に良さそうと思うから」(57.3%)が約6割と続く。



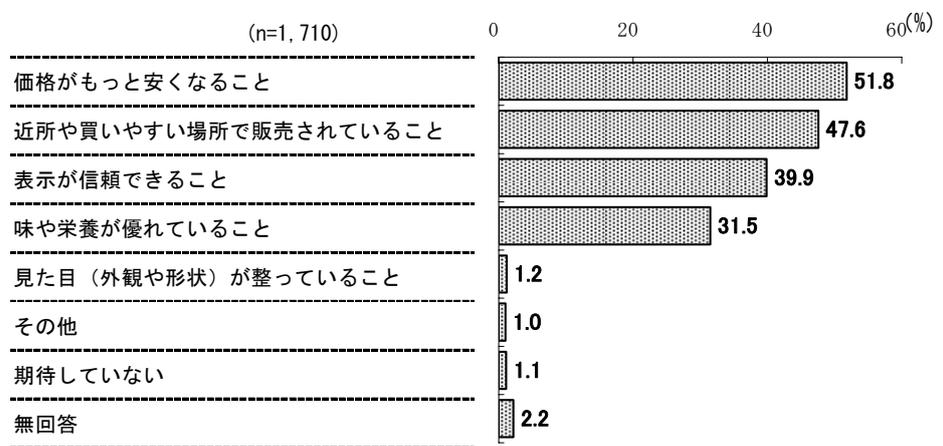
(3) 有機農業の農産物購入意向

有機農業の農産物の購入意向を聞いたところ、「積極的に購入したい」(35.7%)、「ときどき購入したい」(46.5%)を合わせた『購入したい』(82.2%)は、8割を超える。一方、「購入しない」(2.7%)は、ごくわずかである。また、「わからない」(12.7%)は1割を超える。



(4) 有機農業の農産物に期待すること

有機農業の農産物に期待することを聞いたところ、最も高かったのが「価格が最も安くなること」(51.8%)で5割を超える。ついで、「近所や買いやすい場所で販売されていること」(47.6%)が約5割、「表示が信頼できること」(39.9%)が約4割と続く。



《「有機農業について」の自由回答 (抜粋)》

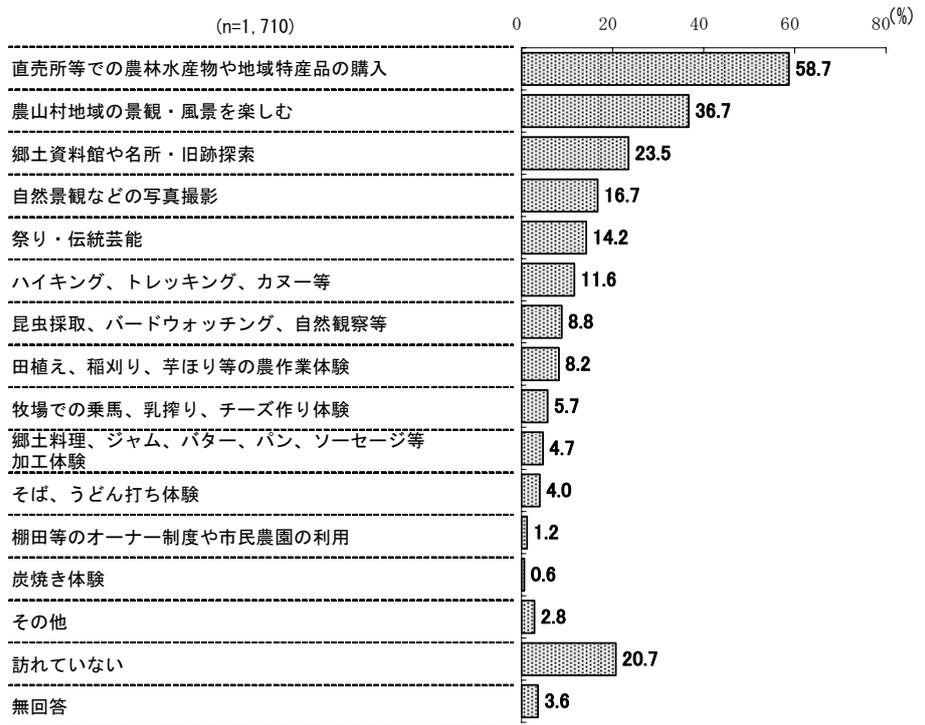
ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、151人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 有機農業とはどういうものなのか、どうやって作っているのかをもっと消費者に知らせた方がいいと思う。作る側と買う側の意識の違いがあるように感じる。(男性・30代・東地域)
- 近くで購入する所があれば必ず買いたいと思うが、買える場所が少なすぎる。たまに見かけても価格が高くて買うのにためらう。(女性・30代・東地域)
- 食に対する安心感、より安全な食物を購入したいと考えている人は多いはず。海外からの輸入品よりも国内産に目を向けている消費者が増えているので、売場の拡大や購入方法をもっと考えて欲しい。(女性・40代・西地域)

8 農村地域の活性化について

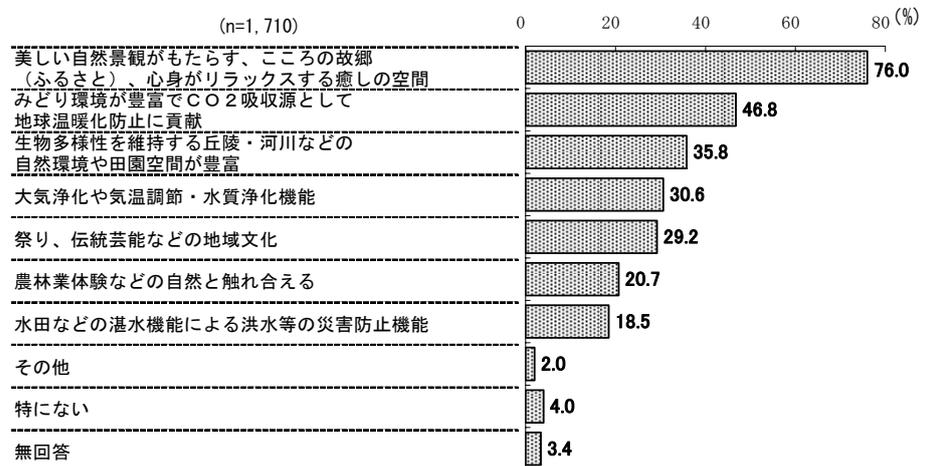
(1) 最近5年間で農村地域を訪れた時の経験

最近5年間で農村地域を訪れた時の体験を聞いたところ、「直売所等での農林水産物や地域特産品の購入」(58.7%)が最も高く約6割である。これに、「農山村地域の景観・風景を楽しむ」(36.7%)が3割台半ば、「郷土資料館や名所・旧跡探索」(23.5%)が2割台半ばと続く。



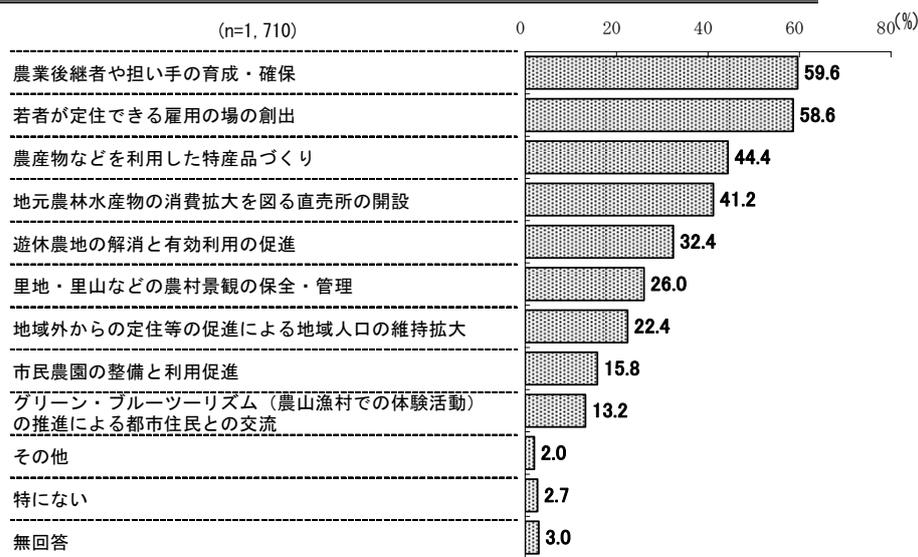
(2) 農村の持つ優れた機能・魅力

農村の持つ優れた機能・魅力について聞いたところ、「美しい自然景観がもたらす、こころの故郷(ふるさと)、心身がリラックスする癒しの空間」(76.0%)が最も高く7割台半ばとなっている。ついで、「みどり環境が豊富でCO₂吸収源として地球温暖化防止に貢献」(46.8%)が4割台半ばとなっており、「生物多様性を維持する丘陵・河川などの自然環境や田園空間が豊富」(35.8%)が3割台半ばと続く。



(3) 今後、農村の活性化のために必要なこと

今後、農村の活性化のために必要なことを聞いたところ、「農業後継者や担い手の育成・確保」(59.6%)、「若者が定住できる雇用の場の創出」(58.6%)がそれぞれ約6割で他に比べて高い。ついで、「農産物などを利用した特産品づくり」(44.4%)が4割台半ばである。



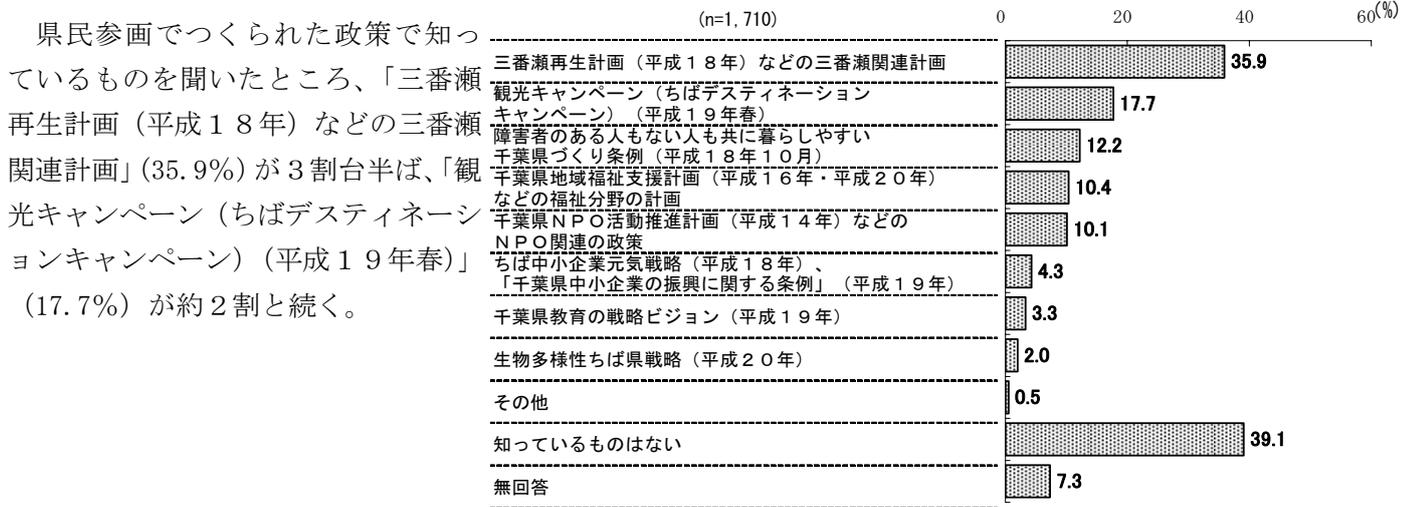
《「農村地域の活性化について」の自由回答（抜粋）》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、163人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

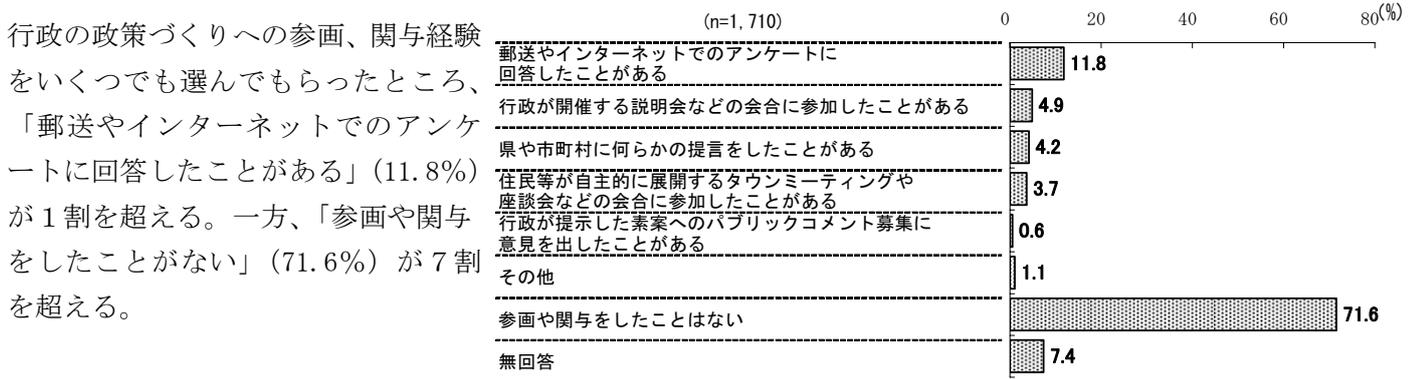
- 夫の実家は農業を営んでいるが、継ぐ予定はない。他人事では、「後継者が」と軽く言えるだろうが、当事者には簡単な問題ではない。(女性・20代・西地域)
- 産地労働を体験する機会がない。サラリーマンでも参加できる形態があれば、拡大できて広範な意見や考え方を知ることができる。参加する初動をバックアップする人が欲しい。(男性・60歳以上・西地域)
- 千葉県の農村地域の現状が、なかなか都市部には伝わってこないなあと思います。広報の方法を検討してもらいたいです。(女性・30代・西地域)

9 県民主役の県政運営について

(1) 県民参画でつくられた政策で知っているもの

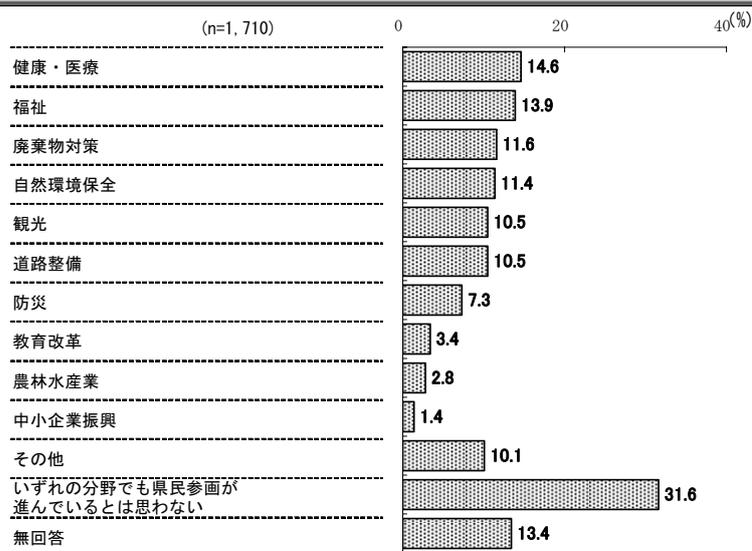


(2) 行政の政策づくりへの参画、関与経験



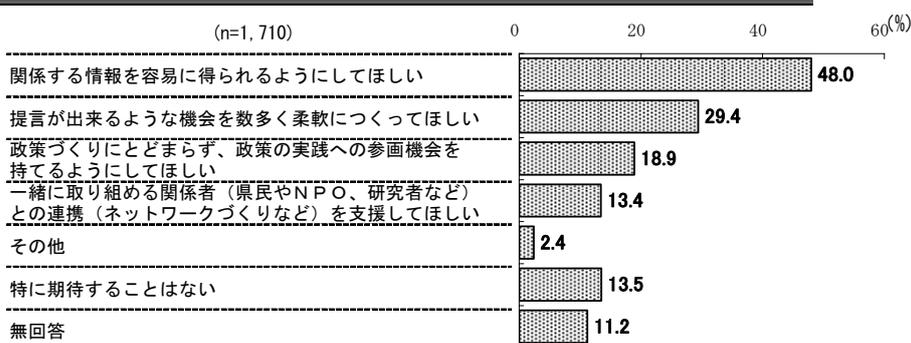
(3) 県民参画が進んだと思う分野

県民参画が進んだと思う分野を聞いたところ、多い順に「健康・医療」(14.6%)、「福祉」(13.9%)が1割台半ば、ついで「廃棄物対策」(11.6%)、「自然環境保全」(11.4%)が1割を超える。一方、「いずれの分野でも県民参画が進んでいるとは思わない」(31.6%)が3割を超える。



(4) 政策づくりへの参画の際に、行政に期待すること

政策づくりへの参画の際に、行政に期待することを聞いたところ、「関係する情報を容易に得られるようにしてほしい」(48.0%)が約5割で最も高い。ついで、「提言が出来るような機会を数多く柔軟に作ってほしい」(29.4%)が約3割、「政策づくりにとどまらず、政策の実践への参画機会を持てるようにしてほしい」(18.9%)が約2割である。



《「県民主役の県政運営について」の自由回答記述(一部抜粋)》

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、125人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

- 県政がその政策立案にあたって、県民参加をこれほどまでに期待しているとは、正直思っていなかった。今までは大きな距離感を感じていたが、これを機に思い直して“自分達のこと”として色々な政策を見てみたい。(男性・60歳以上・東地域)
- 「県民主役の県政運営」と良い言葉を作っているわりに、全く浸透していないと思います。少なくとも私は1つも耳にした事がありません。宣伝が足りない過ぎる(効果がない)のでは?(男性・30代・西地域)
- 普段の生活中でアンケートに質問されていた事など、特に深く考えていなかったもので、県での活動が少し分かって良かったと思います。ただ、色々な問題に対して、もっと誰でも興味を持てるようにしてほしいです。また、情報などがもっと身近に感じられれば、様々な人が協力できやすくなると思います。(無回答・無回答・西地域)

【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、281人から延べ355件の回答が寄せられた。記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に関する要望

○県政については、居住区の市町村に比べ、政策内容が県民に伝わってこないように思います。私も年に何度か新聞に入ってくる県民（政）だよりも目を通す程度です。少なくとも、今年県はこのような事業をする（事業の年度計画概要）とか将来の政策展望などの情報がわかりやすく伝わるよう努力してほしいと思います。（男性・60歳以上・東地域）

■県政情報の発信や活動のPRについて

○千葉県は京葉工業地帯を持ち、豊かな資源、おいしい食材を持ち、魅力的な観光スポットを持っているにもかかわらず、東京や神奈川に比べてかなり田舎というイメージを持たれている。是非ともメディアをうまく使いこなして、千葉県のイメージUPにつながる活動をしていただきたい。（男性・50代・中央地域）

■道路を整備する

○高速道以外の国道を含めた一般道（歩道も含む）の整備が非常に悪く、それ故の渋滞、事故が多い。（男性・40代・西地域）

■便利な交通網を整備する

○千葉県は日本、特に関東（東京中心）の中でどういう位置づけをしているのか。単なる通勤圏では困る。将来の千葉のあるべき姿（浦安地区、千葉地区、成田地区、木更津地区、東葛地区、～etc.）、将来の展望を描き、交通網の整備、事業資本の投入を図るべき。（女性・60歳以上・中央地域）

■医療サービス体制を整備する

○産科医療の充実。近くの総合病院は医師がいなく、名ばかりの科が多い。産科もその一つ。検診の補助も足りない。全無料になってほしい。（女性・20代・西地域）

■高齢者の福祉を充実する

○今、私は一人暮らしをしています（年金）。これからの福祉、医療に力を入れて頂ければ、高齢者も色々な事に参加できると思います。（女性・60歳以上・中央地域）

■次世代を担う子供の育成支援を充実する

○子供の教育費にお金がかかります。将来日本を背負っていく子供達のために、誰でも貸していただける奨学金を県で出していただけると、本当に救われる人が多いと思います。（女性・40代・東地域）

■雇用の場を広げる

○非正規雇用者の問題等、弱い立場の人々に更に追い打ちをかけるような今の社会であってはいけないと思います。人間としての尊厳を最低限守れるセーフティーネットを柔軟に活用し、心身ともに守ってあげてほしい。私達県民もお願いするだけではなく、自分達の責任と何ができるのかを考える時期に来ているなど感じています。（女性・50代・中央地域）

■公園・緑地・水辺を整備する

○残り少ない自然（特に山）を死守して欲しい。これ以上、ゴルフ場や産廃場の許可をしないで欲しい。（女性・60歳以上・南地域）

■住んでいる市町村への要望

○生活圏に合った行政地域区分をして欲しい。白井市は印旛地区になっているが、東葛飾や京葉地区の方が生活圏に合っている。保健所や税務署等が佐倉や成田では不便である。市町村合併を進めるのであるなら、これらのことも考慮が必要であると思う。（男性・30代・東地域）

《「世論調査に関して」の自由回答（抜粋）》

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、154人からの回答が寄せられた。これらの意見から、一部抜粋してご意見を記載した。

- 世論調査を集計したものが発表だけになっていないか？この集計データを元にどの様に県が動いているのか、次のアクションが見えない様な気がします。世論調査と県の政策がリンクする様にしてほしい！！ただ集めるだけにならない様お願いします。（男性・40代・西地域）
- 40年千葉県に在住して初めて世論調査がきました。是非、毎年継続してください。但し、結果を正しく集計して行政改革（特に職員の社会知見革新）に活かしていただきたい。行政活動で世論調査結果からの採用であることもPRしてください。ただし、世論調査からくだらない活動や建物を絶対に作らないでいただきたい。（男性・50代・西地域）
- 私は76歳ですが、この世論調査があることを初めて知りました。私の友人達も知らない人が多いので、もっと多くの人に知っていただいて、千葉県に関心を持っていただけたらいいのではないかと思います。（女性・60歳以上・西地域）
- これからもこのような調査をたくさん実施し、多くの意見や考えを聞いてほしい。人を、人材を、育ててほしい。様々な分野で機会があれば能力を発揮できる人はたくさんいると思います。（女性・50代・中央地域）
- 県政に関する世論調査は必要な事であって、今後も実施してください。（男性・60歳以上・西地域）